

平成24年度事務事業評価シート

◎基本情報

事務事業名	学校図書館サポート推進事業		担当部署	教育委員会 学校教育課(室)	
総合計画体系			根拠法令計画など	学校図書館法	
基本政策(大項目)	3	心豊かで多彩な人材を育む鳴門づくり	事業期間	開始	平成 20年度
政策(中項目)	1	明日を担う教育都市なると			終期
(小項目)		学校教育(②義務教育)			
施策	03	義務教育の充実			
基本事業	2	教育内容の充実			

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 12学級以上の小中学校の児童・生徒														
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	子どもたちが学校図書館を積極的に活用し、調べ学習や読書活動が活発に行われるなど、学校図書館の活性化が図られた状態。														
成果目標	事業目標の達成度合	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>22年度</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校図書館サポーターの配置</td> <td>57.1</td> <td>83.3</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table>	指標名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	単位	学校図書館サポーターの配置	57.1	83.3	100.0	100.0	100.0	%
指標名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	単位										
学校図書館サポーターの配置	57.1	83.3	100.0	100.0	100.0	%										

◎実施結果(DO)

事業実施内容	23年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	学校図書館サポーターを配置し、司書教諭と連携しながら、学校図書館運営の支援を行う、学校図書館を活用した教育活動や読書活動の推進を図る。						
事業実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他							
指標名		22年度実績	23年度実績	24年度目標	25年度目標	26年度目標	単位	
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1	学校図書館サポーター配置校	4	5	6	6	6	校
	2							
成果指標 対象にどのような効果があったか示す指標	学校図書館サポーターの配置		57.1	83.3	—	—	—	%
	目標達成率(実績/目標)			100.0	—	—	—	%

コスト分析		22年度実績	23年度実績	24年度	25年度	26年度	単位	
事業費	(財源内訳の合計)		1,423	1,771	2,142	2,142	2,142	千円
	財源内訳	国	0	0	0	0	0	
		県	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	1,423	1,771	2,142	2,142	2,142		
事業にかかる人件費 (人件費内訳の合計)		652	652	652	652	652	人	
人件費内訳	正規職員(6,517千円/人)	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1		
	臨時職員等(2,012千円/人)							
総事業費 (事業費と事業にかかる人件費の合計)		2,075	2,423	2,794	2,794	2,794	千円	

【事務事業名：学校図書館サポート推進事業】

◎平成24年の実施状況(DO)

現在の実施状況	平成24年度には新たに撫養小学校にサポーターを配置し、現在12学級以上の小中学校には、当初の目標どおり配置できた。継続的な図書館サポーターの配置により、学校図書館の貸出冊数や利用者も増え、調べ学習への連携や豊かな心を育てる読書活動の実践など図書館活動の充実に努めている。
----------------	---

◎項目別評価(CHECK)

事務事業の評価	1.必要性の評価		理由等所見欄
	6	<input checked="" type="checkbox"/> ① 廃止した場合に支障が出る。	サポーターの働きにより、児童・生徒の貸出冊数が伸び、書架も整理されている。また、利用マナーも向上してきた。今後も継続配置することにより、読書活動が広がり、子どもの心の成長と生きる力の醸成に寄与する。配置されていない学校においても、保護者やボランティア団体が読み聞かせや蔵書整理を手伝っており、今後もその体制が継続できるよう働きかけを続ける必要がある。
		<input checked="" type="checkbox"/> ② 施策 義務教育の充実 の達成につながる事業である。	
		<input checked="" type="checkbox"/> ③ 税金で実施するにふさわしい事業で、市民への説明責任も果たせる。	
		<input type="checkbox"/> ④ 市民の基本的な生活の維持・確保に必要不可欠な事業である。	
		<input type="checkbox"/> ⑤ 行政内部の管理上必要不可欠な事業である。	
	/10	<input type="checkbox"/> ⑤ 法令により実施することが義務づけられている事業である。	
	2.有効性の評価		理由等所見欄
	8	<input checked="" type="checkbox"/> ① 市民生活上の課題解決に貢献している。	学校図書館の活性化や子どもたちの読書活動の推進に非常に有効な事業である。4年が経過し、学校図書館の活性化に大きな成果が現れており、廃止することは保護者の理解が得られない。
		<input checked="" type="checkbox"/> ② 行政内部の管理上の課題解決に貢献している。	
<input checked="" type="checkbox"/> ③ 事業目標が達成できるような事業内容になっている。			
<input checked="" type="checkbox"/> ④ 事業対象は適切である。			
<input checked="" type="checkbox"/> ⑤ 成果目標が達成され、市民に具体的に説明できるような効果があがっている。			
/10	<input type="checkbox"/> ⑤ 現在の事業費で、事業の見直しによる成果向上の余地はない。		
3.効率性の評価		理由等所見欄	
10	<input checked="" type="checkbox"/> ① 事業実施手法は適切である。	人件費は、必要最小限の時間数としており、これ以上削減することはできない。	
	<input checked="" type="checkbox"/> ② 事業費を削減する余地はない。		
	<input checked="" type="checkbox"/> ③ 作業手順の改善などによる人件費削減の余地はない。		
	<input checked="" type="checkbox"/> ④ 受益者負担や補助金の割合に問題はない。		
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤ 効率性向上の余地はない。		
/10			

◎今後の方向性(ACTION)

課題等					
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	3
↓「廃止」・「要改善」・「拡充」の場合は以下の欄に記入してください。					
今後の改革案	実施予定時期	<input type="text"/> ▼ ▼			
	どのように改革するのか				